令和２年度第２回千葉市救急業務検討委員会

指令管制に関する専門部会

日時：令和２年１１月１６日（月）
　　１９時００分～２０時００分
場所：千葉市消防局（セーフティーちば）
　　７階　作戦室

次　　第

１　開会

２　議題
　議題１　指令管制業務における事後検証の実施要領について
　議題２　指令管制員の救急に係る教育の課題抽出について

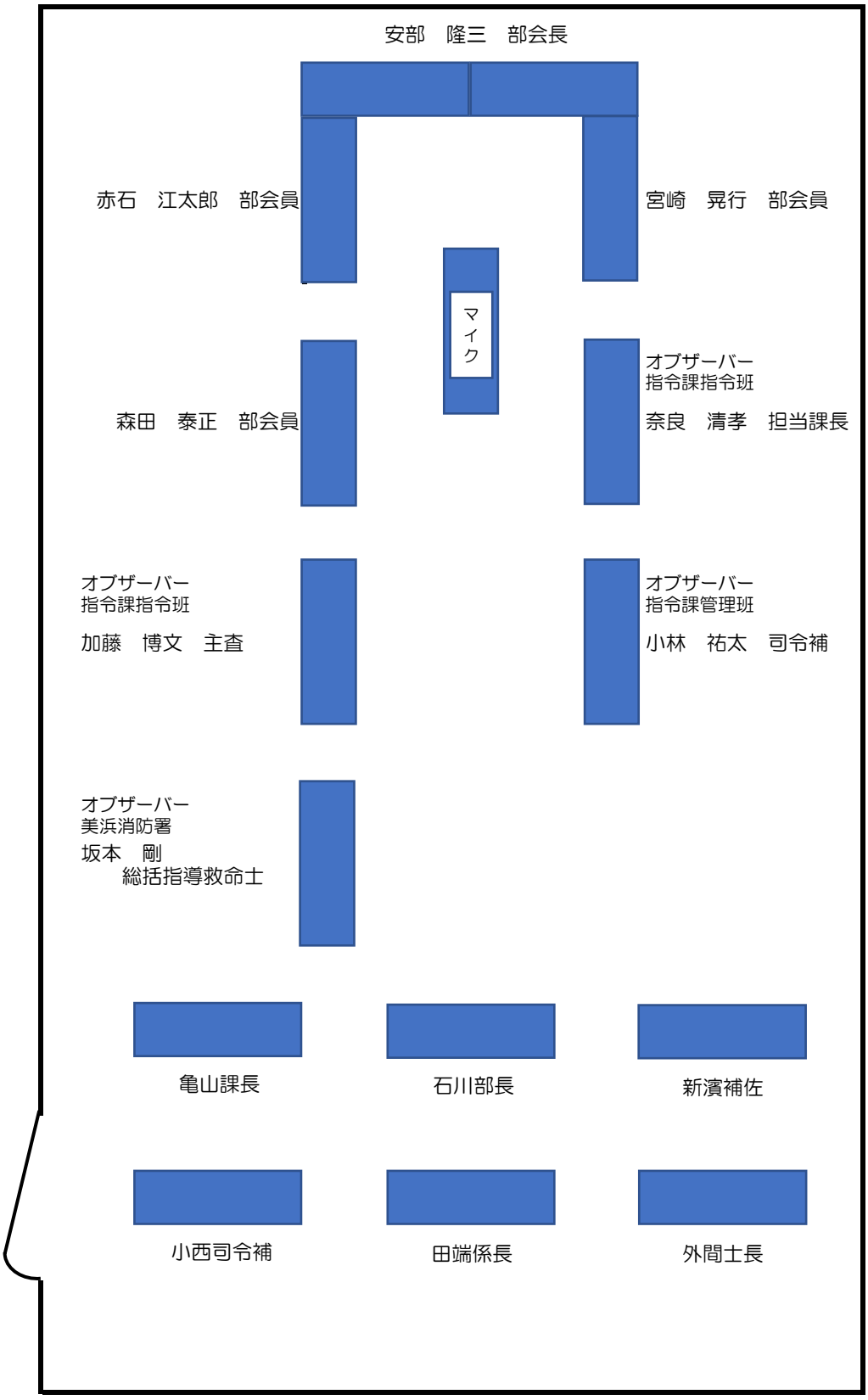
３　その他
　令和２年度第３回指令管制に関する専門部会の開催予定について

４　閉会

令和２年度第２回「指令管制に関する専門部会」席次表

【Web中継により参加】

松村　洋輔　部会員



令和２年度第１回千葉市救急業務検討委員会
指令管制に関する専門部会

議　事　概　要

１　日　時　令和２年９月２５日（金）１９時００分から２０時２０分まで

２　場　所　千葉市中央区長洲１丁目２番１号
　　千葉市消防局（セーフティーちば）７階　作戦室

３　出席者

（１）委　員（５人）
　安部　隆三委員、松村　洋輔委員、赤石　江太郎委員、宮崎　晃行委員、
　森田　泰正委員

（２）事務局
　石川警防部長、亀山救急課長、新濱救急課長補佐、田端高度化推進係長、
　安藤司令補、小西司令補、外間士長

（３）オブザーバー
　警防部指令課：奈良　清孝担当課長
　　加藤　博文主査
　　小林　祐太司令補
　美浜消防署　：坂本　剛総括指導救命士

４　会議内容

　議題１　部会長の選出及び職務代理者の指名について
　議題２　議事録の確定方法について
　議題３　指令管制業務における教育・事後検証に関する課題抽出及び検討について

５　議事概要

（１）議題１　部会長の選出及び職務代理者の指名について
　専門部会の設置に伴い、本委員会設置条例に基づき部会長の選任を行った。安部部会員が推挙され、審議を行った結果、各部会員から異議なく安部部会員が部会長として選任された。また、職務代理者として森田部会員が指名された。

（２）議題２　議事録の確定方法について
　事務局から、議事録の確定方法について説明があった。審議の結果、千葉市附属機関の会議の公開に関する要綱第６の２の規定に基づき、千葉市救急業務検討委員会織田委員長及び安部専門部会長の承認をもって議事録の確定とすることで承認された。

（３）議題３　指令管制業務における教育・事後検証に関する課題抽出及び検討につい

て

　事務局から、専門部会の設置の経緯及び現在の指令管制業務における教育・事後検証の課題、並びに事務局案の検討事項及びスケジュールを説明した。審議の結果、事後検証の対象事例に１項目の追加希望があったほか、事務局案どおりで承認された。

議題１

指令管制業務における事後検証の実施要領について

議案要旨

　専門部会設置の趣旨について、県消防課及び６ＭＣの各地域ＭＣ協議会事務局消防本部（局）に出向し説明、さらには各地域ＭＣ協議会会長には電話で趣旨を説明しました。
　６ＭＣに提案する事後検証の実施要領を、ちば消防共同指令センター各班に検討を依頼し、その結果について御審議をお願いいたします。

参考
〇資料１　千葉市救急業務検討委員会「指令管制に関する専門部会」（お知らせ）
〇資料２　指令管制員事後検証票

ちば消防共同指令センター管内の７ＭＣへの周知及び今後の流れ及びスケジュール

ちば消防共同指令センター管内の７ＭＣへの周知

千葉県北東部・南部ブロック地域MC事務局

千葉MC　市原MC　印旛MC　君津MC　東部MC　山武長生MC　南房総MC

【宛て名】
千葉市救急業務検討委員会委員長 ⇒
- 県ＭＣ協議会会長
- 各地域ＭＣ協議会会長

千葉市消防局警防部救急課長 ⇒
- 県消防課長
- 地域ＭＣ協議会事務局

消防本部（局）担当課長

【書　面】千葉市救急業務検討委員会「指令管制に関する専門部会」の設置について（お知らせ）（資料１）

【10月中旬に実施済】
- 県消防課及び６ＭＣの地域ＭＣ協議会事務局消防本部（局）に書面を持参し、設置の趣旨を説明した。
- 各地域ＭＣ協議会会長には電話で設置の趣旨を説明した。

今後の流れ

６ＭＣに提案する対象事例、検証方法等を指令センター各指令班内で検討を依頼した結果を、専門部会で検討

⇒

その結果を専門部会各地域MC協議会事務局消防本部に提案

⇒

各地域ＭＣと調整を重ね、同時期に開始したい。

スケジュール

	指令センター各指令班内で検討依頼⇒検討結果を第２回専門部会の議題にする。
令和２年１１月１６日	第２回専門部会開催（各地域ＭＣに対して提案する内容）
令和２年１２月上旬	各地域ＭＣに専門部会での検討結果を提示する
令和３年　２月	第３回千葉市救急業務検討委員会開催（第1回～２回専門部会の活動内容及び今後の予定を提示）
令和３年　●月	各地域ＭＣからの意見を集約（事務局で取りまとめ）
令和３年　●月	第３回専門部会開催（各地域ＭＣから集約した意見を提示）
令和３年　●月	口頭指導の事後検証の運用開始

実施要領（事務局案）

指令センター各班での検討結果

対象事例

1　通報時に心肺停止として認識できなかった事例
例：・１１９番時点では傷病者をＣＰＡと判断できなかったが、救急隊現着時、ＣＰＡであった。
2　収容先医療機関医師が要検証とした事例
例：・収容先医療機関医師が、口頭指導の内容について疑問が生じた。
3　指令管制員が要検証とした事例
例：・受付から救急隊現着までの口頭指導の内容に疑問が生じ、検証が必要と判断した。
4　救急隊員が要検証とした事例
例：・指令内容と救急隊現着時の状況に大きな相違があった。
・入電から指令まで時間を要している。
・救急隊員が活動検証票を作成する過程、又は所属検証会議を開催する過程で口頭指導の内容について疑問が生じた。
・活動後の救急隊員から、口頭指導の内容について疑問が生じた。

事例ごとに考えられる具体例を提示した。

検証員

一次検証員：指令管制員（班長、副班長を中心に）
二次検証員：各地域の実情に合わせる。　← 変更項目

検証方法

検証方法は２通り
1　一次検証→二次検証→フィードバック
2　一次検証→フィードバック　← 追加項目
対象事例１及び２ ⇒二次検証まで実施する。
対象事例３及び４⇒医学的見地から検証が必要と班長が判断した場合は二次検証を実施する。

書式

資料１を参照

二次検証の実施については、各地域の実情で実施してもらう。

千葉ＭＣで検証実施に際しての検討事項

	第１回専門部会での承認事項		検討事項
二次検証員	専門部会員医師	⇒	専門部会員の所属する医療機関に依頼する。
検証方法	一次検証→二次検証→フィードバック	⇒	一次検証→二次検証→フィードバック 一次検証→フィードバック

資料１

令和２年●●月●●日

千葉県●●●●●●協議会
会長　●●　●●　様

千葉市救急業務検討委員会
委員長　織田　成人

千葉市救急業務検討委員会「指令管制に関する専門部会」の設置について（お知らせ）

時下　貴職におかれましては、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、「口頭指導に関する実施基準の一部改正について」（平成２８年４月２５日付け消防救第３６号消防庁次長通知）が発出され、口頭指導を含む指令管制業務に関する事後検証については、地域メディカルコントロール協議会が行うこと、教育については、地域メディカルコントロール協議会との連携体制を構築することと示されております。

このことから、これらに関する事後検証体制及び教育体制を構築し、救命効果の向上に資することを目的として、当局におけるメディカルコントロール機関である千葉市救急業務検討委員会内に「指令管制に関する専門部会」を設置し、検討することといたしました。

つきましては、下記のとおりお知らせいたしますので、御了知の程よろしくお願いいたします。

記

１　議事

本部会は年４回程度の開催を予定しております。内容につきましては、議事録が確定次第、都度、電子メールにより貴協議会事務局宛てに送付いたします。

２　その他

（１）当市救急隊が取り扱った事案における口頭指導を含む指令管制業務に関する事後検証につきましては、令和３年当初からの試行運用開始に向けて検討する予定です。

（２）不明な点は、担当までお問合せください。

担　当：千葉市救急業務検討委員会事務局
（千葉市消防局警防部救急課）
新濱・田端・小西
住　所：〒２６０－０８５４
千葉市中央区長洲１－２－１
電　話：０４３－２０２－１７０５
ﾌｧｯｸｽ：０４３－２０２－１６５９
メール：kyukyu.FPD@city.chiba.lg.jp

指令管制員事後検証票

資料２

検証票

受付日	年　月　日（水）		覚知種別	携帯電話	外部スピーカー						
災害住所	千葉市若葉区		発生場所区分	屋内		指令番号		累計番号			
種別		出動救急隊	中央第一救急隊	他隊連携	消防隊・救助隊と連携						
担当職員	千葉　一郎	千葉　一郎	千葉　一郎	千葉　一郎		受付時刻	0:00:00	受付～指令	0:00:00		
救急資格	救急隊員の資格を有する者	救急救命士	応急手当指導員	応急手当指導員		指令時刻	0:00:00				
備考						指導時刻	0:00:00	受付～指導	0:00:00		
						切断時刻	0:00:00				
通報内容 年齢	59　歳					現着時刻	0:00:00				
通報内容 性別	男性					収容医療機関					
						検証対象区分					

状況把握	意識（反応）の有無	□ 有	□ 無	□ 確認できず	□ 確認せず	理由（　）
	正常な呼吸の有無	□ 有	□ 無	□ 確認できず	□ 確認せず	理由（　）
	出血の有無	□ 有	□ 無	□ 確認できず	□ 確認せず	理由（　）
	異物の有無	□ 有	□ 無	□ 確認できず	□ 確認せず	理由（　）
口頭指導	実施の有無	□ 実施	□ 未実施	理由（　）		
	種類	□ 胸骨圧迫	□ AED	□ 異物除去（　）	□ 熱傷	□ 電撃傷
		□ 気道確保	□ けいれん	□ 止血	□ 指趾切断	□ 感染防止対策	□ 回復体位

その他必要事項について

検証結果票

一次検証

担当班	第　班	検証員		検証日	年　月　日

状況把握について

実施した口頭指導について

覚知～出動指令までの時間について

（参考値　1分20秒）

覚知～口頭指導までの時間について

（参考値　1分40秒）

バイスタンダー実施者について

その他必要事項について

二次検証

医療機関		医師名		検証日	年　月　日

傷病者の状態把握について

実施した口頭指導について

その他必要事項について

フィードバック

担当班	第　班	検証員		実施日	年　月　日

フィードバック内容

議題２

指令管制員の救急に係る教育の課題抽出について

議案要旨

　今年度に予定されている指令管制員の救急に係る教育を報告、さらにはこれまで教育に携わった医師からの意見を参考に抽出した課題について、御審議をお願いいたします。

参考
〇資料１　指令管制員の救急に係る教育カリキュラム

今年度のちば消防共同指令センター管制員教育

到達目標

【事後検証】　指令事務協議会内に事後検証を行う仕組みを設立する。

【教育体制】　指令管制業務におけるメディカルコントロールのもとでの教育体制を確立する。

教育体制

指導者

- 例年１１月～２月に、ちば消防共同指令センター教育研修計画に基づき「指令管制員の救急に係る教育」を実施している。（時間数：１５時間３０分）
- 例年、千葉大学医学部附属病院医師に本教育の指導者として協力を求めている。

本教育における医師の関与

- 昨年度までは口頭で依頼していたが、今年度は書面により依頼（ちば消防共同指令センター長→警防部救急課長→千葉大学医学部附属病院医師）
- 常駐医師として勤務する時間内に実施（業務に支障がないように実施）

今年度の予定

	講義 １６：００～１６：４５		総合教育 １４：００～１６：００	
		担当医師名		担当医師名
１班	１月１２日	安部医師	２月２５日	服部医師
２班	１月　５日	島田医師	２月２６日	大島医師
３班	１２月１７日	髙橋医師	２月２３日	柄澤医師
４班	１２月１８日	安部医師	２月１６日	安部医師

- 指令管制員から「昨年の内容が勉強になった。」との声が多かったため、昨年と同じ内容で実施予定

課題（事務局案）

教育体制

課題

千葉大学医学部附属病院医師からの意見

- 教育カリキュラム改善のための検討項目
- 指令管制員に必要な知識を適切に習得するための項目別時間配分の再検討
- テキストを用いた自習形式とシミュレーションやグループワークなどの実習形式の時間配分の再検討
- 救急現場との連続性や、医療機関との連携について習得できるプログラムの追加

指導者として携わっている千葉大学医学部附属病院医師からの意見を参考に、「指令管制員の教育に係る教育」の課題を抽出したい。

ちば消防共同指令センター指令管制員の救急に係る教育計画（抜粋）

３　質の管理

本教育においては、医学的根拠に基づいた指導が適切になされることが重要であり、また、指令センター が管轄する各区地域のメディカルコントロール協議会と指令センターが共通認識をもち、指令管制業務を行うことが望ましい。そのため、７MCと教育の内容について事前協議するとともに必要に応じて医師に要請するものとする。

４　その他

本教育の内容については、必要に応じて見直しを図るものとする。

- 現在の教育計画は、平成２８年に７ＭＣの承認を得て策定された。（教育カリキュラムは別紙１参照）

資料　1

指令管制員の救急に係る教育カリキュラム

		1日目	2日目	3日目	4日目	累計
教育項目	知識確認	医学基礎教育				
教育方法	座学	座学	座学	座学	座学	
科目	プレテスト	解剖・生理	心停止に至る病態	心肺蘇生法・AED その他口頭指導対象病態	常駐医師による講義	
内容	事前知識の確認 到達目標の認識	生命維持のメカニズム	心筋梗塞、脳血管障害 呼吸器疾患、高エネル ギー外傷、アレル ギー、窒息	胸骨圧迫の重要性、人工呼吸の定義、電気ショックの適応、電話によるAED使用方法の指導、管轄内設置場所、気道異物、止血、熱傷、指趾切断、けいれん	胸骨圧迫の重要性、人工呼吸の定義、電気ショックの適応、電話によるAED使用方法の指導、管轄内設置場所、気道異物、止血、熱傷、指趾切断、けいれん	
指導者	班長	救急救命士	救急救命士	救急救命士	常駐医師	
各日教育時間	60分	45分	45分	45分	45分	4時間00分
項目別教育時間	60分	180分				4時間00分

	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目	累計
教育項目	救急指令管制実務教育					
教育方法	座学	座学	座学	座学	実技	
科目	救急業務における 指令管制員の役割	緊急度・重症度識別	口頭指導要領	地域特性	緊急度・重症度識別	
内容	通報から救急隊到着までの対応の重要性「救命の連鎖」	出動種別判断のための識別、心肺停止の早期識別	口頭指導と連動した指令管制要領	ドクターヘリ・消防ヘリ及びラピッドカーの要請要領、構成消防本部別出動種別の差異	出動種別判断のための識別、心肺停止の早期識別（病態照合グループワーク）	
指導者	救急救命士	副班長	副班長・救急救命士	副班長・救急救命士	副班長・救急救命士	
各日教育時間	45分	45分	45分	45分	45分	7時間45分
項目別教育時間	180分					7時間45分

	10日目	11日目	12日目	13日目	14日目	累計
教育項目	救急指令管制実務教育					
教育方法	実技	実技	実技	実技	実技	
科目	緊急度・重症度識別	緊急度・重症度識別	口頭指導要領	口頭指導要領	口頭指導要領	
内容	出動種別判断のための識別、心肺停止の早期識別（病態照合グループワーク）	出動種別判断のための識別、心肺停止の早期識別（病態照合グループワーク）	心肺蘇生法基礎訓練	心肺蘇生法基礎訓練、不可視下での心肺蘇生法指導	不可視下での心肺蘇生法指導、口頭指導と連動した指令管制要領	
指導者	副班長・救急救命士	副班長・救急救命士	副班長・救急救命士	副班長・救急救命士	副班長・救急救命士	
各日教育時間	45分	30分	45分	45分	30分	11時間00分
項目別教育時間	120分		120分			11時間00分

					累計
教育項目	知識確認	知識確認	救急指令管制実務教育		
教育方法	座学	座学	実技		
科目	ポストテスト	ポストテスト	総合教育		
内容	学習効果の確認	学習効果の確認	ブラインド方式によるシミュレーション訓練		
指導者	班長	班長	副班長・救急救命士		
各日教育時間	45分	45分	180分		15時間30分
項目別教育時間	90分		180分		15時間30分

教育カリキュラム

	教育項目	科目	内容	行程表	教育時間 （計15時間30分）
座学教育	知識確認	プレテスト	事前知識の確認、到達目標の認識		60分
		ポストテスト	学習効果の確認		90分 （45分×2）
	医学基礎教育	解剖・生理	生命維持のメカニズム	1	45分
		心停止に至る病態	心筋梗塞、脳血管障害、呼吸器疾患、高エネルギー外傷 アレルギー、窒息（死戦期呼吸、心停止直後のけいれん）	2	45分
		心肺蘇生法・AED	胸骨圧迫の重要性、人工呼吸の定義など 電気ショック適応・不適応の心電図	3	45分
		その他口頭指導対象病態	気道異物、出血、熱傷、指趾切断など	4	45分
	救急指令管制実務教育	救急業務における 指令管制員の役割	通報から救急隊到着までの対応の重要性「救命の連鎖」	5	45分
		緊急度・重症度識別	ドクターカー・ドクターヘリの要請、PA連携の早期要請のための識別	6	45分
		口頭指導要領	口頭指導の定義、口頭指導員、口頭指導の指導項目　他	7	45分
		地域特性	ドクターヘリ・消防ヘリ及びラピッドカーの要請要領 構成消防本部別出動種別の差異	8	45分
実技教育		緊急度・重症度識別	出動種別判断のための識別 心肺停止の早期識別（病態照合グループワーク）	9,10,11	120分 （40分×3）
		口頭指導要領	心肺蘇生法基礎訓練、不可視下での心肺蘇生法指導 口頭指導と連動した指令管制要領	12,13,14	120分 （40分×3）
		総合教育	ブラインド方式によるシミュレーション訓練		180分